

東アジアにおける絶対重力測定

Absolute Gravity Measurements in East Asia

竹本 修三[1]; 東 敏博[2]; 福田 洋一[3]; 小笠原 志歩里[4]; 安部 麻衣子[4]; 岩野 祥子[3]; 木村 勲[5]; 平岡 喜文[5]; 中川 弘之[5]; 桧山 洋平[5]

Shuzo Takemoto[1]; Toshihiro Higashi[2]; Yoichi Fukuda[3]; Shihori Ogasawara[4]; Maiko Abe[4]; Sachiko Iwano[3]; Isao Kimura[5]; Yoshifumi Hiraoka[5]; Hiroyuki Nakagawa[5]; Youhei Hiyama[5]

[1] 京大・理・地球惑星; [2] 京大・院理・地物; [3] 京大・院理・地物; [4] 京大院・理・地物; [5] 地理院
[1] Earth and Planetary Sci., Kyoto Univ; [2] Dep. of Geophys., Kyoto Univ.; [3] Geophysics, Kyoto Univ.; [4] Dep.Geophysics,Kyoto Univ; [5] GSI

東アジアにおける絶対重力基準網の確立を目的の一つとして、2002年から中国・インドネシア・マレーシアにおいて、絶対重力測定を実施してきた。使用した絶対重力計は、京都大学大学院理学研究科及び国土地理院が保有する Micro-g Solutions 社製 FG5 である。

これまでに、中国においては武漢・上海・南寧および北京、インドネシアではバンドン・ジョグジャカルタで、マレーシアではクアラルンプールにおいて絶対重力測定を実施した。特に、武漢においては、中国科学院測地及び地球物理研究所所有の FG5 も加えて、3 台（# 112, # 201, # 210）を用いて比較測定を実施した。

武漢・バンドンにおいては、超伝導重力計による観測が行われており、超伝導重力計の検定とともに、重力の非潮汐重力変化の検出も目的の一つである。

来年度（2004 年度）は、中国のラサ・昆明、インドネシアのボゴール・ポンチアナク、マレーシアのコタキナバルにおいて、絶対重力測定を計画している。また、日本国内では、京都・松代・江刺・つくばにおいて、繰り返し絶対測定を実施しているが、ここでは、中国・インドネシア・マレーシアにおける絶対重力測定について、得られた絶対重力値とともに、測定の状況・問題点についても報告する。